

守れる電気柵 8ヶ条

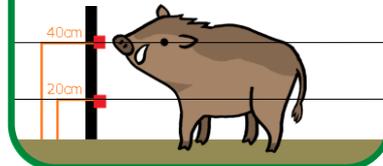
1. 柵の近くに潜み場を作らない



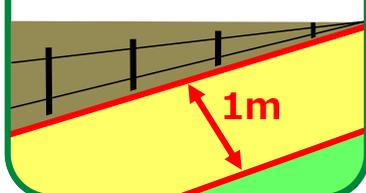
2. 電柵は24時間365日通電



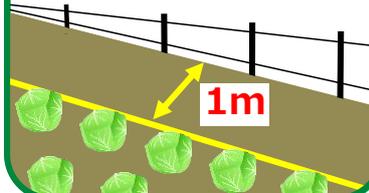
3. 電線は地面から
20cmと40cmの高さ



4. 柵の外 1mは何もないように



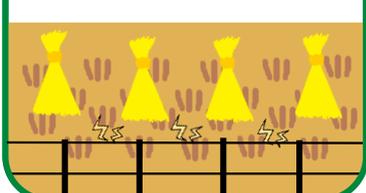
5. 柵から 1m離して植える



6. コンクリート、アスファルト
の近くに設置しない



7. 稲刈りの後こそ電柵を張ろう



8. 草刈りは8月まで



正しい使い方を
知ることで
あなたの農地が
守られます

1. 農地の近くに藪等の潜み場所があると、イノシシが安心して農地に近づくことができます。また、山へは戻らずに農地近くの潜み場所で生活をするようになります。
2. 電気の通っていない電気柵に出会ったイノシシは、電気柵は怖くないものだと学習してしまいます。
3. 体は剛毛で電気に触れても平気。イノシシが感電するのは鼻だけです。うり坊の鼻の高さが約20cm、大人のイノシシの鼻の高さが約40センチになります。
4. 柵の外側に人がゆったりと歩けるくらいのスペースがあると、イノシシは警戒して近寄ってきません。
5. 作物が柵の近くに植えられていると、イノシシはどうにかしてその作物を食べようします。その結果、柵を突破されたり壊されたりします。作物が遠くに植えられていると、イノシシも諦めます。
6. 電気柵の電気は、電線に当たったイノシシの鼻から足に向かって流れます。電気を通しにくいコンクリートやアスファルトにイノシシの足が接しているとうまく電気が流れず、あまり効果がありません。
7. 稲刈り後に生える二番穂やレンゲはイノシシにとって冬を越すための貴重な栄養源です。栄養を蓄え冬を越したイノシシは翌年再び現れます。畑を守るには、稲刈りの後が特に大事な時期です。
8. 9月以降に草刈りをする、春に生えるはずの青草が冬に茂り、動物のエサになります。もし5頭の子供がうまれても自然下では約半数しか大人になれませんが、母親の栄養状態が良いと全ての子供が大人になってしまい、結果イノシシが増えていくこととなります。

電気柵を設置した後のチェックポイント

- 1. アースを正しく設置してい
- 2. 漏電対策をしてある
- 3. 線を張りすぎていない
- 4. 斜面に設置していない
- 5. 電柵を張った場所を整地してある
- 6. 24時間通電にしてある

☆ チェックのつかなかった番号は、下の絵を見て対応を確認してください ☆

